

第6章 価値と労働（後半・岩波文庫P 62～69）

司会…7月号の第6章前半部分では、商品の価値とは「社会的労働の結晶」であることが明らかになり、その分量によって大小が決まるということを学習しました。レポートは前半に引き続き香川県協の三木政孝さんです。よろしくお願ひします。

生産力により価値は変わる

諸商品に実現された社会的必要労働の分量が、それらの商品の交換価値を規制するとすれば、一商品の生産に要する労働の分量が増加すればするほど

その商品の価値が増大し、減少すればするほどその価値が低減すると言えます。一商品の生産に必要な労働の分量は、使用される労働の生産諸力の変動につれて絶えず変動します。労働の生産諸力が大きければ大きいほど一定の時間内により多くの生産物がつくられ、小さければ小さいほど同じ時間内によりわずかの生産物しかつくれません。

労働の生産諸力とは何か。①自然的諸条件。例えば土地や鉱山の豊穰度などです。②労働の社会的諸力の進歩・改良。いわゆる機械化・工場の規模拡大などです。つまり、諸商品の価値は、

それらの生産に使用される労働時間に正比例し、使用される労働の生産諸力に反比例するということです。

商品の価値を貨幣で

表したものが価格

価格は、単純には価値の貨幣的表現に他なりません。では、価値と市場価格との関係。または自然価格（標準価格）と市場価格との関係はどうなるのかです。

市場価格は、同じ種類のすべての商品にとって同一です。そのものの平均

◆みんなの学習講座

的な生産諸条件のもとで、一定の品物の一定量を市場に供給するために必要な社会的労働の平均量を表現します。その限りでは市場価格はその価値と一致します。ただし、実際の市場では需要と供給の変動に依存しており、価値を中心として価格は変動します。価格の騰貴と下落を繰り返して結果的に相殺されて平均化され、実質価値と同等のものになるということです。

剰余価値は売買からは生じない

売り手の平均的な利潤はどこから生まれるのでしょうか。例えば諸商品はその価値以上の価格で売ることによって売買から生ずるものと考えるのは誤りです。ある人が売り手として常に得る儲けを、彼は買い手として常に失うということになってしまいます。利潤の一般性質を説明するためには、諸商品は平均的にその現実の価値で売られ、利潤は

諸商品とその価値で（すなわち、それらの商品に表現されている労働量に比例して）売ることによって得られるという前提に立って考える必要があるということです。表面的な事物の外観のみを見て判断してはいけないということです。

豊穰度と価値の増減

司会：三木さん、ありがとうございます。皆さん、どんなことでも構いません。質問はありませんか。

AD：p 63・5 行目にある「豊穰度」とは何のことなのですか。レポートに教えてください。

三木：豊穰度が高いということは、作物が育つ豊かな土地であるということです。本章では人口増加によって豊穰度の低い土地を耕作すると、同じ額の生産物を得るために、より多量の労働を費やさなければならず、その結果農

産物の価値が増加するであろうと書かれていますね。

TG：生産に適している場所という意味合いもあるように思います。

HG：何かに使用するのに開発が必要な土地なのか、そのまま使用できる土地なのかということもそうですね。

労働時間が減ると

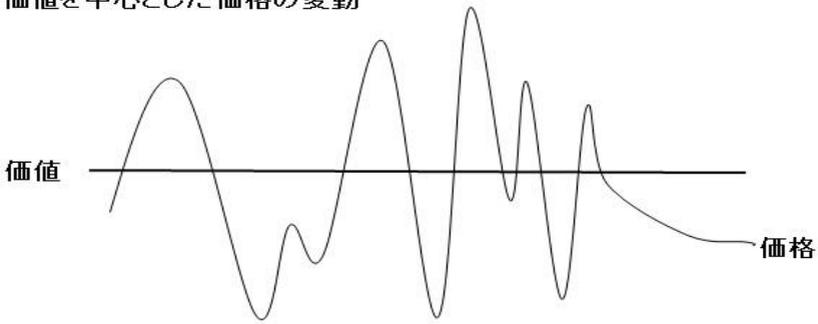
賃金は下がるのか？

KM：この当時、生産諸力の関係で労働時間が減ってきたと思いますが、賃金は下がったのでしょうか。

須藤：第2章に実例が紹介されていますが、実際には上がりました。

柳本：その通りです。生産諸力の発展によって生産の規模も市場も拡大し、大量生産ができる代わりに一つ一つの商品に含まれる価値は少なくなりました。労働時間は短縮されましたが、むしろ賃金は上がったのです。

● 価値を中心とした価格の変動



需要と供給のバランスによって価格は変動する。
需要と供給が一致したとき、商品は価値通りで交換される。

価格は価値の

貨幣的表現に他ならない

司会…では次に、商品の価値を貨幣で表したものが価格であるというところに進みます。

須藤…価格は価値を中心として、需要と供給により変動します。価値以上に上るときもあるし、下がる時もあるの、両者が相殺されて本来の価値と同等に落ち着くということです。

AD…昨年のマスク騒動なんかはそうですね。供給が足りなくなつて価格が大幅に上昇しましたが、すぐに色々な企業が生産に飛びついて今度は供給が増えすぎて安くなっています。

TU…自然価格というのは、価値通りの価格ということですか。

柳本…アダム・スミスが提唱したのが自然価格ですが、彼は価値論に基づいて導き出したかどうかわかりませんが、価値を自然価格と表現したことは正し

いと言えます。

HG…一般的な市場価格と言われる平均的な価値のことをアダム・スミスが自然価格と表現したということですね。

利潤は価値以上に売って

得られるものではない

NY…p 68・2行目から始まる「ある人が売り手として常に得るものを、彼は買い手として常に失うに違いない。」というところですが、どういうことですか。

TS…ある人が価値以上の価格をつけてものを売っても、今度自分が買い手となったときに、同じように価値以上の価格で買われるので、同じことだということですね。

HG…得をし続ける人もいるかもしれませんが、全体的というか社会全体で見れば、得をした人がいれば一方で損をした人もいるので、結果的に同じだ

◆みんなの学習講座

ということですね。

須藤…新たな価値を生み出していないということですよ。

司会…利潤は価値以上の値段で売買することからではなく、諸商品をその価値で、すなわち、それらの商品に実現されている労働量に比例して売ることによって得られるということですね。

HG…表面上は先ほどあった、価値以上の値段をつけて売ったことで儲けが生まれるように見えています。が、そうではなくて価値通りに売ることによって利潤は生まれているのだという前提で考察していかないと、間違った認識をするし、利潤そのものの仕組みが理解できませんね。

単純労働と複雑労働

司会…次に何かございませんか。

NY…単純労働と複雑労働の説明をお願いします。

柳本…端的に職業で言えばどうなりますか？

OC…医者や複雑労働で、工場や流し作業をしている労働は単純労働でないかと思えます。

HG…最近は大工さんの匠の技術が必要なくなつて、家を建てるのも技術のいらぬ組み立て作業になっていきますね。機械化等で熟練が必要なくなつてきています。

柳本…教育なしで行える労働が単純労働で、教育や知識が必要で専門的な労働が複雑労働だということですが、これも時代によって変わってきています。昔には複雑労働だったものが、単純労働に置き換えられているということですね。

司会…一概に言い表せないということですか。

須藤…肉体労働が単純労働で、精神労働が複雑労働であるという人もいますが、これは誤りです。しかも肉体労働

が下の地位で、精神労働が上という者もおりますが、これは労働者の分断を意図したものととして、私たちは否定するべきです。



単純労働（食品工場での箱詰め）



複雑労働（心臓手術）

「」の当時独占はあったのか

池内：p 67・6行目に「かくして、私が今見逃さねばならぬ独占の影

響・・・」とあるのですが、この当時独占はあったのでしょうか。

須藤：当時はまだ独占資本はありませんが、この時期にも周期的に恐慌がおこっており、その都度小さな企業が倒れ、大きな企業に吸収されるなど、独占に近いような形の企業が出て来始めていました。

現象から本質を見抜く

NY：p 68・13行目「これは、逆説であり日常の見聞と反するように見える」というのはどういうことですか。

司会：日常の事象に反するという意味での逆説という表現ですが、その前に「諸商品は平均的にはその現実の価値で売られるという、および、利潤は諸商品をその価値で売ることによって得られるという、定理から出発しなければならぬ。もし諸君が、利潤をこの前提に基づいて説明できぬならば、諸君

はどうして利潤の説明はできない。」とありますね。

須藤：現象から本質を見抜く必要性です。現象として太陽が地球の周りをまわっているように見えますが、本当は地球が自転してまわっている。見た目で判断してはいけないということです。

HG：現実には、諸商品をその価値以上の価格で売ることによって売買から利潤が生まれているように表面上見えますが、実際、諸商品は平均的にその現実の価値で売られることによって利潤が得られる。利潤は売買でなく、その前の生産過程で生まれているのだという前提で見ていかないと結果的に利潤の説明はできないということです。

TS：すべては疑いということですね。

司会：マルクス経済学を学習することで、資本の言い分に負けない、騙されない思想を私たち労働者が確固なもの

◆みんなの学習講座

にしていくな必要があるということですね。

〈貨幣発生 の 必然性〉

少し前提として交換にかかる貨幣の誕生について説明します。交換について最初は物々交換のように単純な価値形態として、例えば亜麻布と上着が偶然的に交換することができました。そのうちに交換する対象が拡大されていきます。亜麻布を持つ者が、必ずしも常に上衣1着だけを望んでいるわけではないため、亜麻布20エシは小麦1クォーターやお茶10kgなど色々なものとも同等として交換するようになりまます。

次の段階になると、多くの人々が亜麻布となら交換してもいいとなります。複数の等価物による交換ができるようになります。亜麻布20エシならお茶10kgと、上衣1着と、小麦1クォー

ター、等々と交換することが一般的となります。そして次第に特定の商品に等価物が統一され、一般的な価値形態としていよいよ貨幣形態へと移行します。

貨幣は商品交換の歴史的発展過程で商品生産者の私的な交換行為のなかで社会的なものを表す特別な商品として必然的に生まれたのです。例えば、亜麻布20エシ、上着1着、小麦1クォーター、A商品X量、等々、金2オンスと交換されるようになりました。金もそれ自体は一つの商品です。なぜ金が最終的に貨幣の役割を果たすことになったのか。それは金が、①長期間にわたり価値を保有する耐久性を持っていること。②比較的小さな量でも大きな価値量を表すことができ、交換手段として最適であること。③自由に分割や結合ができ、分割しても質が変わらないこと。などからです。金と銀が金本位制や銀本位制で同時に使われてい

たこともありますが、ある時、銀が大量に発掘されて暴落したことがあり、結果的に金が一般的になりました。



江戸時代の貨幣 豆板（銀貨：左）と小判（金貨：右）